





































めんそーれ

名護のひんぷんガジュマル

(通称：ひんぷんがじまる)

国指定天然記念物 平成9年9月2日指定

「ひんぷん」とは屋敷の正門と母屋との間に設けられた屏風状の塙のことで、外からの目撃しや悪霊を防ぐものといわれます。乾隆15年(1750年)具志頭親方泰温は、当時の運河開通論と王府の名護移遷論を鎮圧するため、三府龍脈碑を建てました。この石碑がひんぷんのように見えることから「ヒンブンシー」と名付けられ、その隣に生育するガジュマルもいつしか「ひんぷんがじまる」と呼ばれるようになりました。

ガジュマル (*Ficus microcarpa* L. f.) はクワ科の常緑高木で、屋久島以南の亜熱帯から熱帯にかけて分布し、沖縄では屋敷林、緑陰樹として広く植栽されています。漢名は榕樹で、幹はよく分岐して枝葉は四方に繁茂し、垂下する気根は地上に降りて幹となり美しく樹冠をつくっていきます。

ひんぷんがじまるは、推定樹齢280年~300年、樹高19m、胸の高さでの幹周囲は10m、樹冠の広がりも長いところで直径30m、堂々とした容姿は市のシンボル、そして街のひんぷんの役割を担っています。ひんぷんがじまるの特異な景観は古くから衆目的になり、写真におさまる周辺の様子で街の移り変わりを知ることが出来ます。名護の街の移り変わりを見てきたひんぷんがじまるは、まさに「市民の木」です。

※文化財の現状を変更したり、保存に影響を及ぼす行為は、条例および法律で禁じられています。
平成12年(2000年)3月 名護市教育委員会

























































































































































